

## 千間堂跡

北嶺に位置する千間堂跡は、754 年に中国の僧侶である鑑真（688-763）が屋島寺の前身を創建した時のものと考えられている。その後、815 年に空海（774-835）が寺を真言宗に改宗した際に、台地の南側にある現在の場所に移された。

2000 年に行われた発掘調査では、寺院を建てる際に柱の土台として使われたと思われる礎石の跡が見つかった。また、仏壇に使われるような複数の注ぎ口を持つ装飾的な土器が 3 つ発見され、この場所がかつて神聖な場所であったことを示す証拠となった。考古学者は、これらの遺物は仏堂のものであると考えている。跡地の西側にある石の遺跡は、13 世紀に作られたお墓と考えられている。

千間堂跡の近くには千間堂広場という緑地があり、トイレやあずまやが設置されている。